

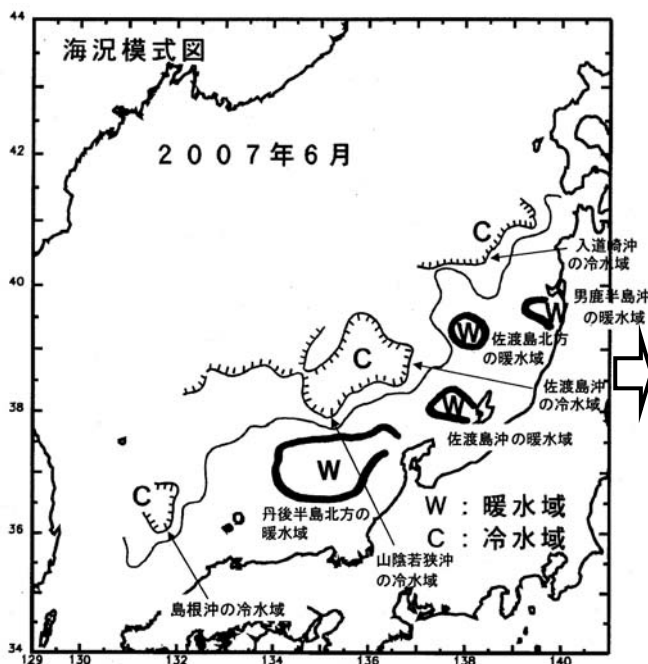
## 平成19年度第2回日本海海況予報

一別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター  
日本海区水産研究所がとりまとめた結果一

### 今後の見通し (2007年7月~9月)

対馬暖流域の表面水温は、“やや高め” (+1°C程度)で経過する。

対馬暖流域の50m深水温は、西部は“やや高め” (+1°C程度)、北部は“かなり高め” (+1.5°C程度)で経過する。



### 2007年7月~9月の海況

- 丹後半島北方の暖水域は、ほぼ停滞する。
- 佐渡島沖の暖水域は、北東に移動する。
- 佐渡島北方の暖水域は、東に移動する。
- 男鹿半島沖の暖水域は、北上した後消滅する。

- 島根沖の冷水域の張り出しは、平年並み。
- 山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、弱い。
- 佐渡島沖及び入道崎沖の冷水域の張り出しは、やや弱い。

### 問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班 担当：大隈、田中、佐藤

〒100-8950 東京都千代田区霞ヶ関1-2-1

電話：03-3502-8111 (内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759、

電子メール：yuusuke\_sato@nm.maff.go.jp

独立行政法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所 業務推進部

〒951-8121 新潟市中央区水道町1丁目5939-22

電話：025-228-0451(0616)、ファックス：025-224-0950、電子メール：www-jsnf@fra.affrc.go.jp

本予報は水産庁のホームページ (<http://www.jfa.maff.go.jp/release/index.html>)、独立行政法人水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査推進委託事業のホームページ (<http://abchan.job.affrc.go.jp/>)、及び日本海区水産研究所のホームページ (<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp>) に掲載されます。

## 参 画 機 関

北海道立中央水産試験場	京都府立海洋センター
青森県水産総合研究センター	兵庫県但馬水産技術センター
秋田県水産振興センター	鳥取県水産試験場
山形県水産試験場	島根県水産技術センター
新潟県水産海洋研究所	山口県水産研究センター
富山県水産試験場	社団法人 漁業情報サービスセンター
石川県水産総合センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
福井県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所

# 平成19年度第2回日本海海況予報

## 1. 今後の見通し（2007年7月～9月）

- (1) 丹後半島北方の暖水域は、ほぼ停滞する。佐渡島沖の暖水域は、北東に移動する。  
佐渡島北方の暖水域は、東に移動する。男鹿半島沖の暖水域は、北上した後消滅する。
- (2) 島根沖の冷水域の張り出しは、平年並み。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、弱い。  
佐渡島沖及び入道埼沖の冷水域の張り出しは、やや弱い。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“やや高め”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部は“やや高め”、北部は“かなり高め”で経過する。

## 2. 経過（2007年3月～2007年5月）

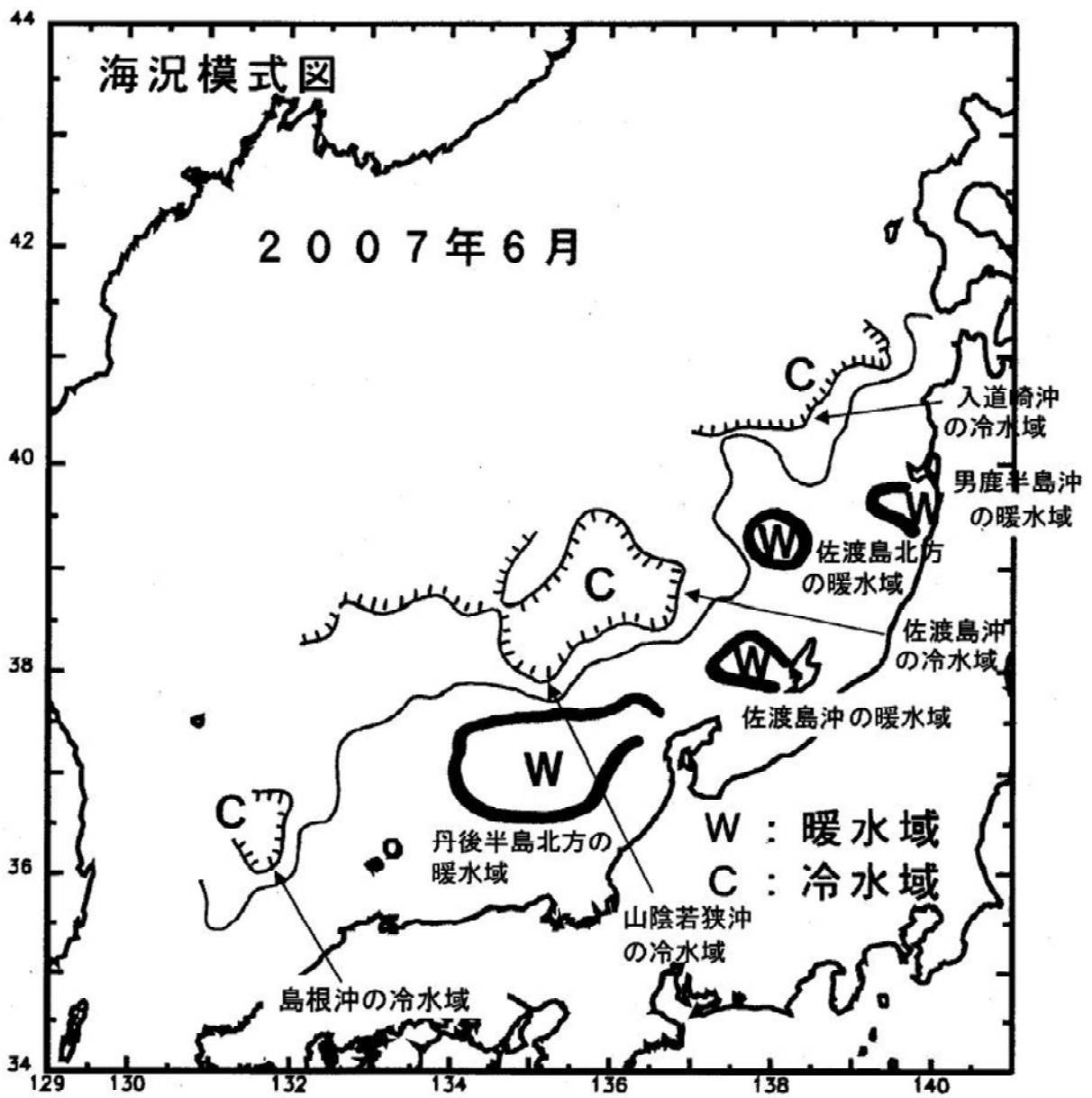
- (1) 3月に隠岐諸島北東でみられた暖水域は、ゆっくりと東に移動。  
3月に能登半島北方でみられた暖水域は、南東に移動した後ほぼ停滞。  
3月に佐渡島北方でみられた暖水域は、3つの暖水域に分裂。1つは佐渡島北方でほぼ停滞、1つは山形沖から北上、1つは津軽海峡西方まで北上した後消滅。
- (2) 島根沖及び山陰・若狭沖の冷水域は、規模は小さく接岸状況は平年並み。佐渡島沖及び入道埼沖の冷水域は、規模は小さくて離岸（3月）。
- (3) 対馬暖流域の表面水温  
3月：ほぼ全域で“やや高め”～“かなり高め”となり、隠岐諸島北東及び能登半島北方では“はなはだ高め”の海域が広範囲に分布。  
4月：ほぼ全域で“やや高め”～“かなり高め”となり、隠岐諸島北方及び能登半島西方では“はなはだ高め”の海域が分布。  
5月：ほぼ全域で“平年並み”～“やや高め”となり、但馬沖、能登半島～佐渡島周辺では“かなり高め”～“はなはだ高め”の海域が広範囲に分布。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“かなり高め”（1～3月平均）。

## 3. 現況（2007年6月）

- (1) 暖水域は、丹後半島北方、佐渡島沖、佐渡島北方及び男鹿半島沖に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、規模は平年並みで接岸。山陰・若狭沖、佐渡島沖及び入道埼沖の冷水域は、規模は小さく離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、ほぼ全域で“平年並み”～“やや低め”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部は“かなり高め”、北部は“はなはだ高め”（4～6月平均）。

（註）引用符（” ”）で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

- ”はなはだ高め”：約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ
- ”かなり高め”：約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ
- ”やや高め”：約4年に1回の出現確率である1℃程度の高さ
- ”平年並み”：約2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温
- ”やや低め”：約4年に1回の出現確率である1℃程度の低さ
- ”かなり低め”：約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の低さ
- ”はなはだ低め”：約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の低さ



2007年6月の海況模式図